小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

観音寺市立柞田小学校

関連項目：検証改善プラン②、教育活動プラン⑥

児童と教師の自己評価による規範意識等の育成

目的

本校の児童は、どの子も一人ひとりは正しい行動がとれていますが、集団の中に入ると規範意識に課題のある言動をとる者も一部に見られます。そこで、指導の重点項目をしぼり、児童自身が「自己を見つめる取組」を推進しました。また、児童数と教員数が多い中で、心の結びつきを大切にするために、「豊かなかかわり」をキーワードとし、全教職員の連携による指導の確立をめざして、新たな「教職員の自己評価」を行うことにしました。

内容

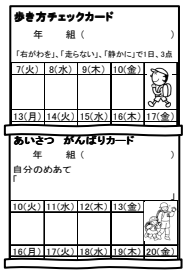
● 児童の自己評価を中心にした取組の流れ

柞田っ子の約束（正しい歩行・力いっぱいの清掃・気持ちのよい挨拶）を決めて取り組んできましたが、まだ廊下を走ったり、清掃や挨拶に消極的だったりする児童が見られました。

そこで、この約束の遵守を児童の内発的なものにするために、強調旬間を設けて、児童会役員や委員会の協力のもとで取り組みました。まず、実態について振り返らせた後、具体的な方法について学級や代表委員会で話し合いました。次に、目標達成に向けて、月目標の掲示や意識化のためのポスターの募集、自己目標や合い言葉の決定、児童会や各委員会の協力、自己評価カードの活用、〇〇名人の発表など、年間を通して変化のある取組を進めました。特に、自己評価カードによる振り返りに重点に置き、自己を見つめる目を育成することをめざしました。取組の流れは、以下の通りです。

生徒指導部での協議 → 児童会役員との協議 → 職員会での共通理解 → 全校生への周知 → 取組の実施（児童の自己評価、教師による個の称賛、学級の称賛など） → 生徒指導部での協議

● 自己評価カードの改善



昨年度までの「柞田っ子の約束」についての自己評価カードは、全校生が同じ目標に対する自分の行動を〇×で記入するものが多かったです。観点が明確で全校の傾向を探る面では役立つのですが、児童の意欲化にはつながらないと思われたので、個人目標に対する自己評価ができるものにしたり、３点満点とした得点化を取り入れたり、全職員による合格サインの記入を取り入れたりしました。

例えば、あいさつに関する個人目標の設定にあたっては、「目を見て」、「大きな声で」、「笑顔で」、「相手より先に」、「名前を付けて」、「〇人以上に」などの観点を教師が示したうえで、児童が自己決定することを大切にしました。この個人評価を合計したものを、学級の「がんばり達成度」として表し、80%以上の達成日があれば、「学級がんばり賞」を渡しました。

また、毎週金曜日には、各学級で「今週の自分」の振り返りをさせ、「今週の学級ポイント」、A（100%）、B（80～99%）、C（50～79%）、D（49%まで）の４段階で示して、意欲化を図りました。

● 点検項目を用いた教職員の自己評価

各児童の状況を全職員が把握し共通実践ができ、生徒指導部会を中心とした組織化を図るために、全職員に指導に関する新たな自己評価を行いました。昨年度までの、毎月の「生徒指導に関する状況調査」、「いじめに関する点検項目」の実施に加えて、年２回ですが、「問題行動の未然防止に向けた点検項目」、「先生、見逃さないで 心のシグナルを」の実施を行いました。また、その結果についての生徒指導部会で分析を行い、校内研修で検討することで指導体制の見直しを図りました。

成果

以上の取組により、「柞田っ子の約束」を意識する児童が増えてきたように思われます。学級がんばり賞（80%以上の合格）もほとんどの学級にわたすことができました。その要因は、目標達成に向けた全校集会での話し合い、強調旬間での児童のがんばりへの称賛などもあるでしょうが、今回行った自己評価カードの工夫も、変化のある取組として功を奏したように思われます。また、「点検項目を用いた教職員の自己評価」は、日常指導の振り返り、児童に寄り添うための共通理解を図るうえで役だったと思われます。